

男女共同参画に関する市民意識調査  
結果概要

稲 敷 市

# 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、稲敷市における男女共同参画に関する市民の意識と実態を総合的に把握し、男女共同参画計画の策定に向けての基礎資料とするとともに、今後、男女共同参画を推進していくための参考資料とすることを目的として実施しました。

## 2. 調査対象と調査の方法

- (1) 調査の対象者 市内在住の20歳以上の住民2,000人  
(男性990人、女性1,010人)
- (2) 抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- (3) 調査方法 郵送による配布、回収（督促はがき1回）
- (4) 調査期間 平成18年1月27日～2月14日

## 3. 調査項目

- (1) 回答者属性
- (2) 男女の地位の平等意識
- (3) 男女の生き方や家庭生活、役割分担
- (4) 子育て
- (5) 介護
- (6) 就業関係
- (7) 地域活動等
- (8) 女性の人権、ドメスティック・バイオレンス
- (9) 男女共同参画

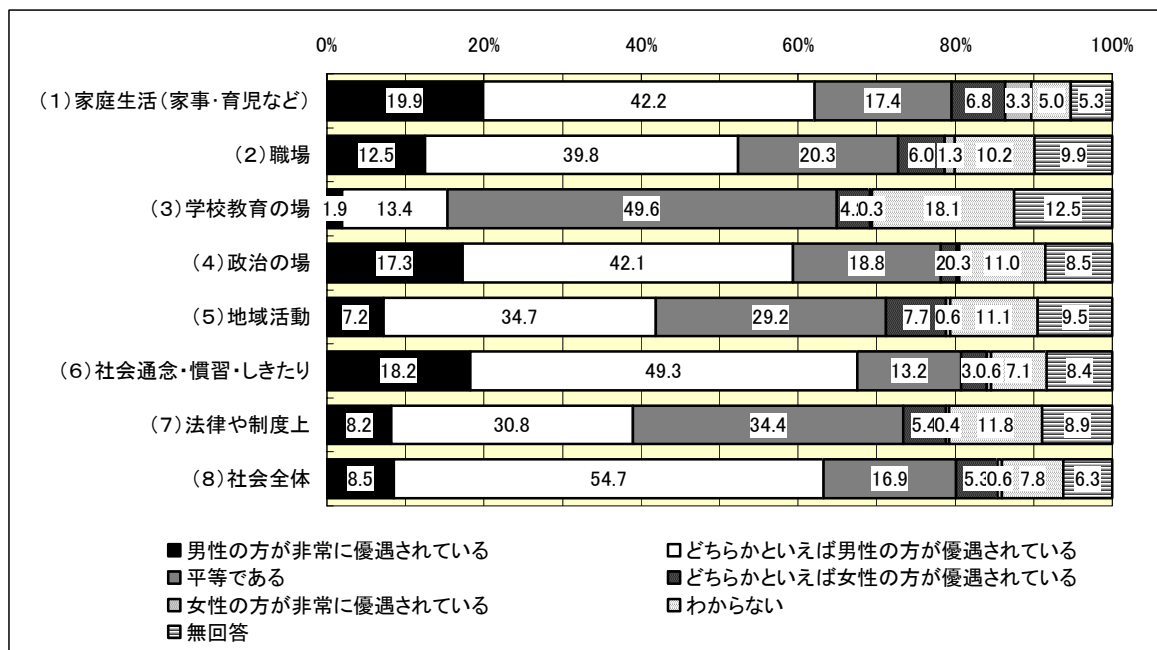
## 4. 回収結果

- (1) 有効回収数 718票（男性 299票 女性 411票）
- (2) 有効回収率 35.9%（男性 30.2% 女性 40.7%）

# 男女の地位の平等意識

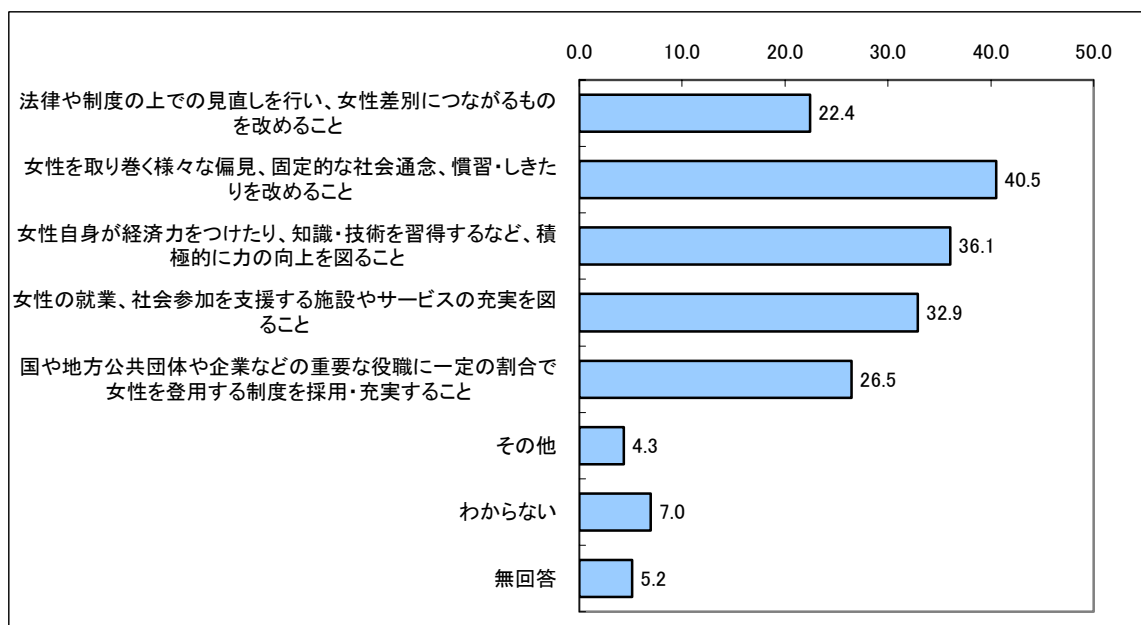
[社会の各分野における男女の地位の平等感]

男女の地位について、回答者の6割以上は、家庭生活（62.1%）、社会通念・慣習・しきたり（67.5%）などにおいて、また社会全体として考えた場合（63.2%）も、「男性の方が優遇されている」と答えています。



[平等になるために重要なこと]

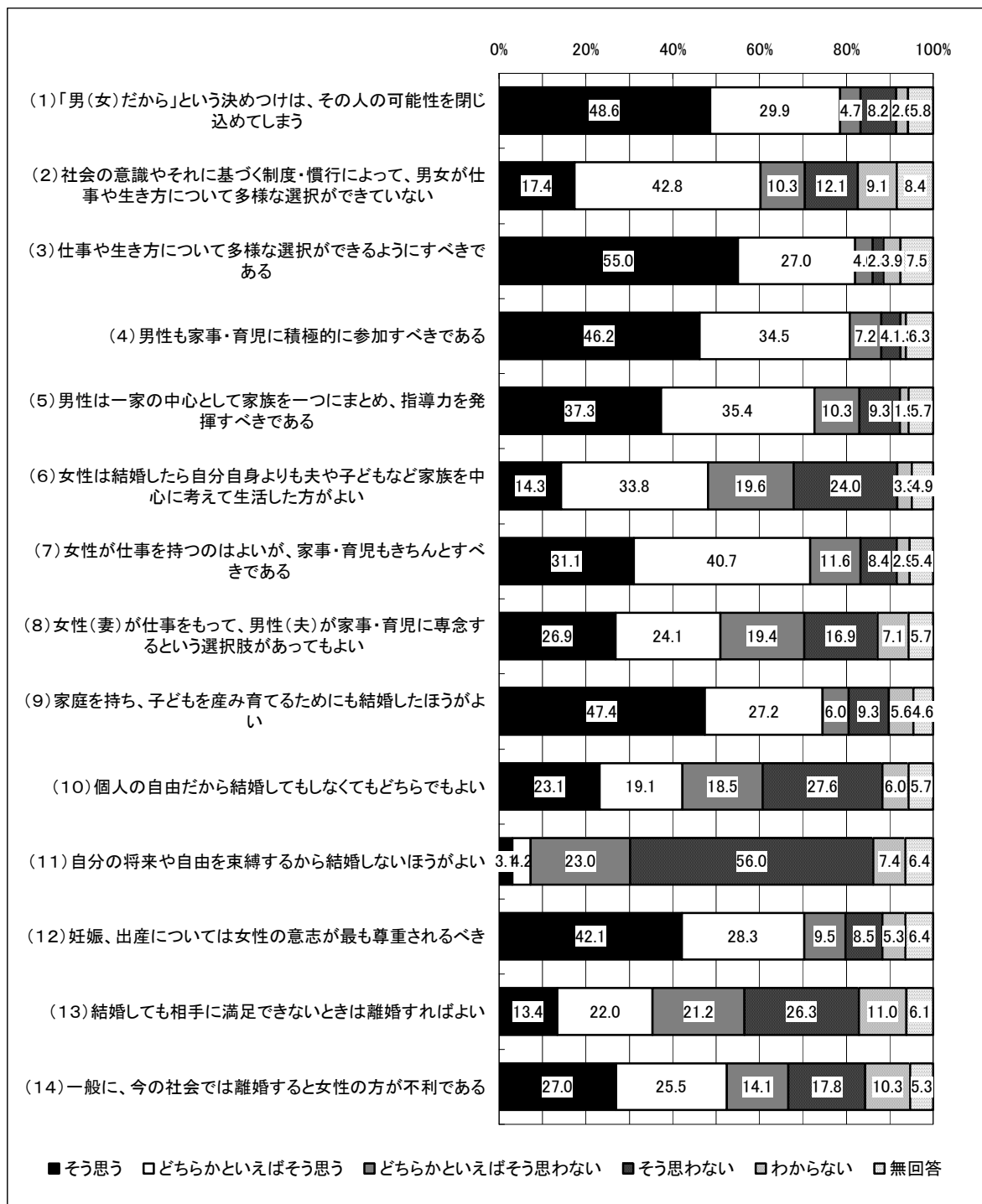
男女が平等となるために重要なことは、「固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」と答えた人が40.5%で最も多くなっています。



# 男女の生き方や家庭生活、役割分担

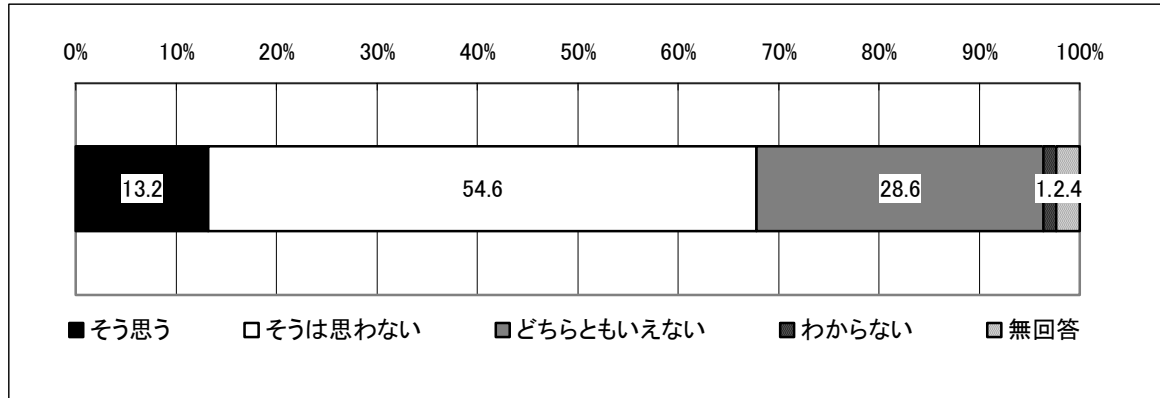
〔男女の生き方や家庭生活に関する考え〕

男女の生き方について、回答者の8割が『男(女)だから』という決めつけは、その人の可能性を閉じ込めてしまう(78.5%)、「仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」(82.0%)と答えています。また、回答者の8割(80.7%)が「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」と答えると同時に、7割以上(71.8%)が「女性が仕事を持つのはよいが、家事・育児もきちんとすべきである」と答えています。



〔性別役割分担についての考え方〕

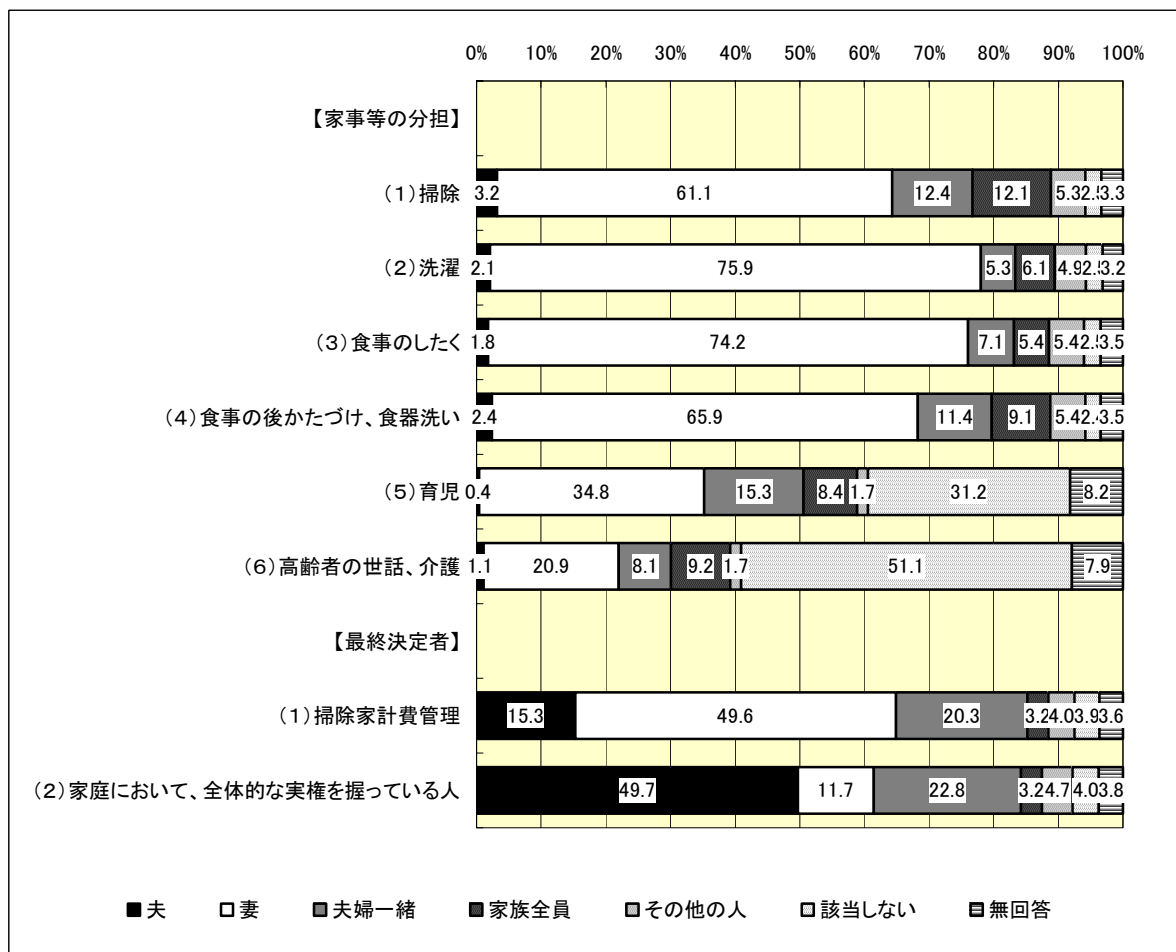
「男は仕事、女は家庭」という考え方について、半数以上（54.6%）の人が「そうは思わない」と答えています。



〔家事等の分担、家庭での最終決定者〕

家事等の分担は、いずれも「妻」が多くを占めている。特に、洗濯（75.9%）と食事のしたく（74.2%）は「妻」が7割以上を占めている。

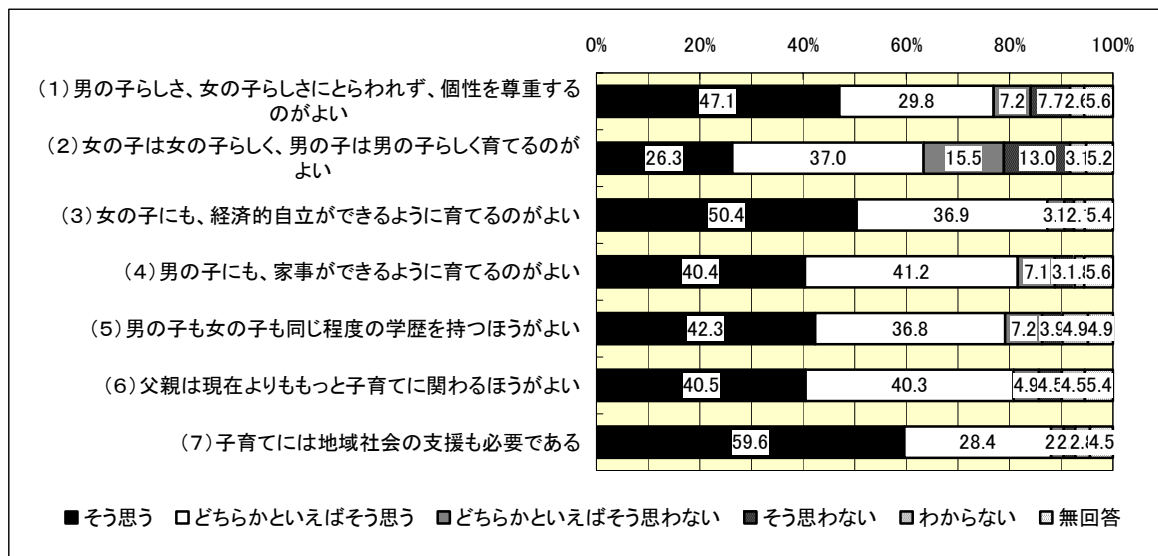
家庭において全体的な実権を握っているのは、半数（49.7%）が「夫」となっている。



# 子育てについて

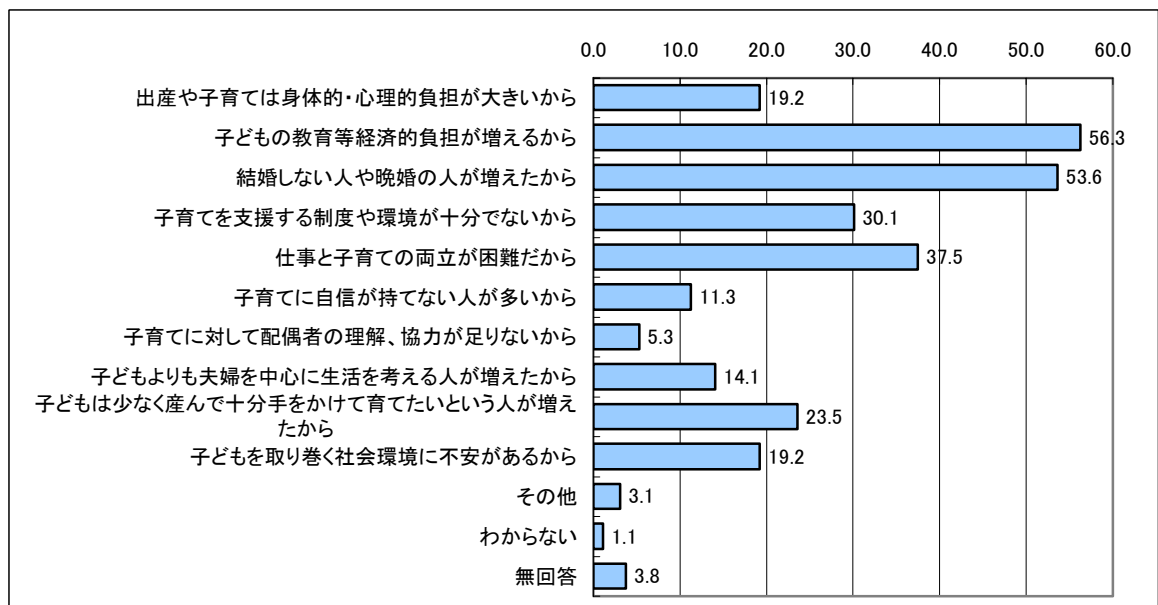
## 〔子育てに関する考え方〕

子育てに関して、回答者の8割が個性、自立、学歴など男の子の子に関係なく、「個人を尊重して育てるのがよい」と考えている一方、6割以上が「女の子らしく、男の子らしく育てるのがよい」とも考えている。また、約9割（88.0%）の人が「子育てには地域社会の支援も必要」と考えている。



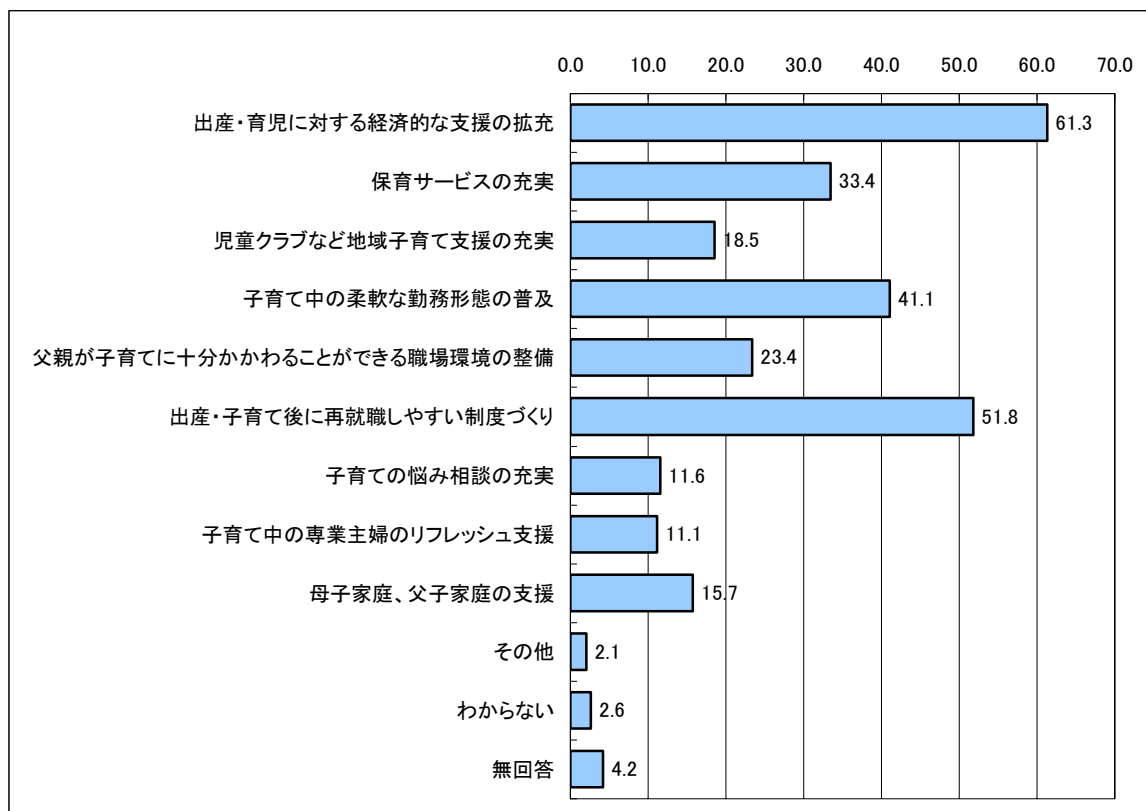
## 〔出生率低下の原因〕

出生率低下、少子化の原因は、回答者の5割以上が「子どもの教育等経済的負担が増えるから」（56.3%）、「結婚しない人や晩婚の人が増えたから」（53.6%）と答えている。



[安心して子どもを産み育てるために必要なこと]

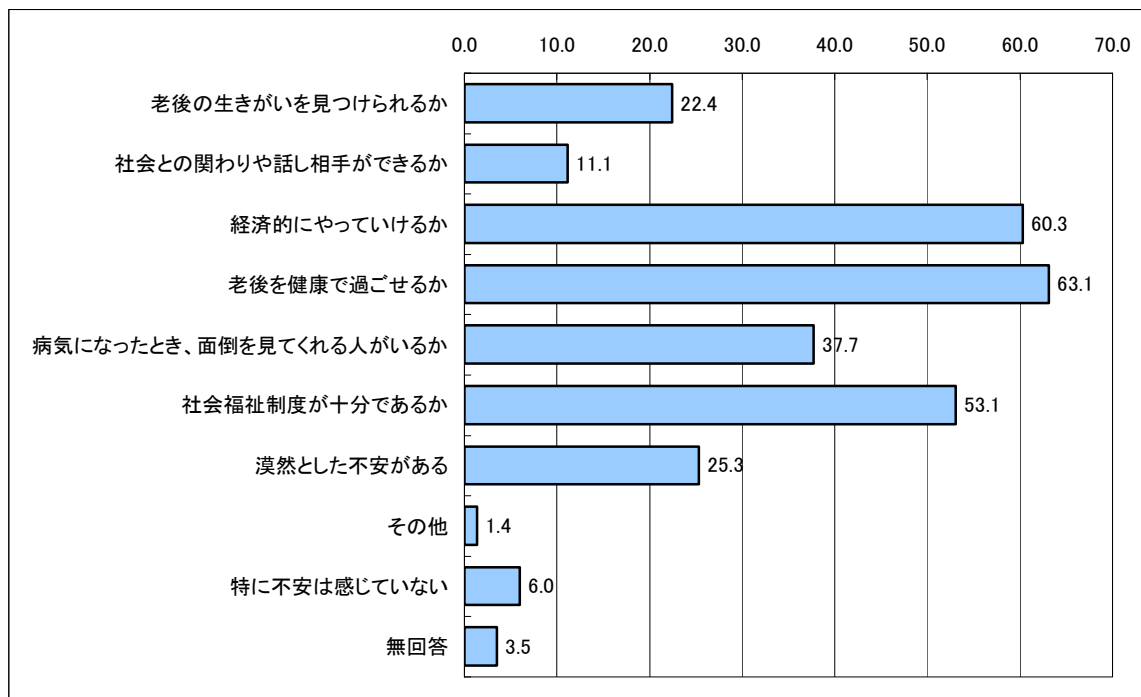
安心して子供を産み育てるために必要なことは、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」と答えた人が 61.3%と最も多くなっている。次に「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」が 51.8%と多くなっている。



# 介護について

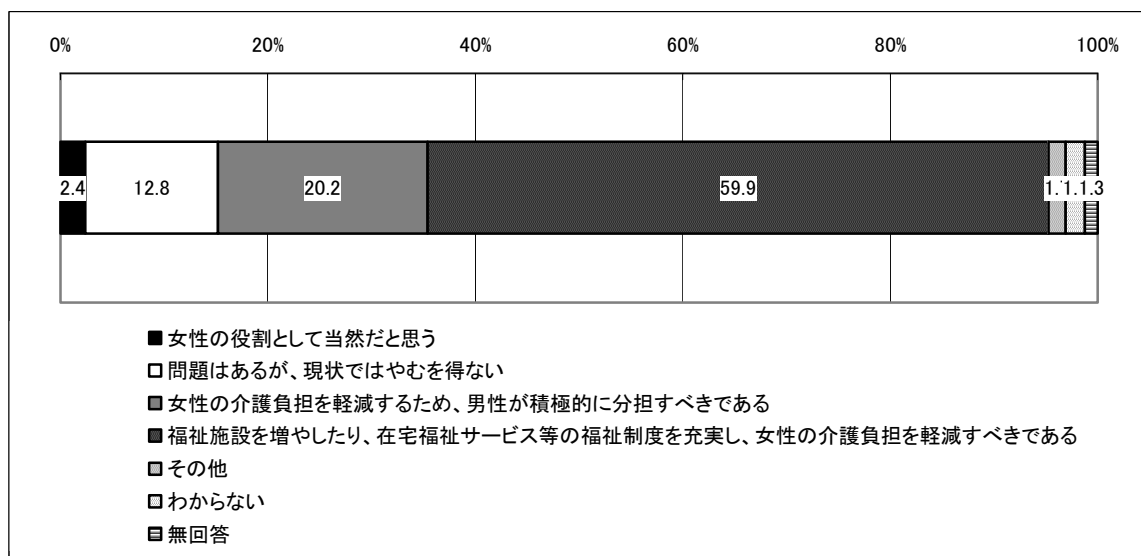
## 〔老後の不安〕

自分の老後について、回答者の6割以上が「老後を健康で過ごせるか」(63.1%)、「経済的にやっていけるか」(60.3%)という不安を感じている。



## 〔介護の担い手が主に女性であることについて〕

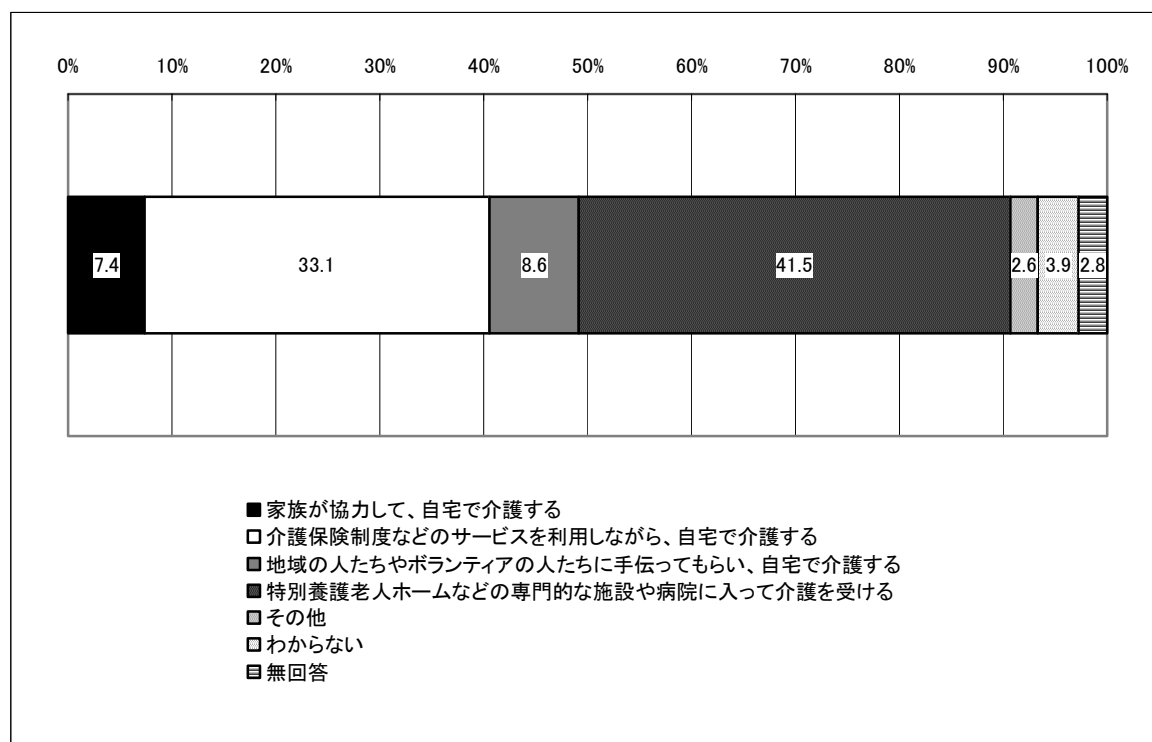
介護の担い手が主に女性であることについて、回答者の6割(59.9%)が「福祉施設を増やしたり、在宅福祉サービス等の福祉制度を充実し、女性の介護負担を軽減すべきである」と考えている。





## [介護の望ましい方法]

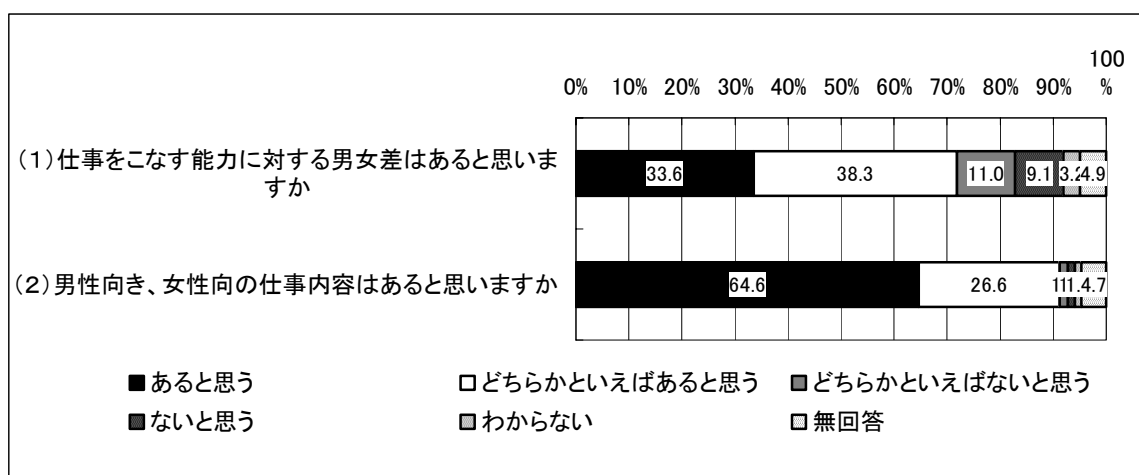
これからの介護について望ましいと思う方法は、「自宅で介護する」が49.1%で、「施設や病院に入って介護を受ける」(41.5%)より多くなっている。自宅介護の方法としては、「介護保険制度などのサービスを利用しながら」が33.1%と最も多くなっている。



## 就業関係について

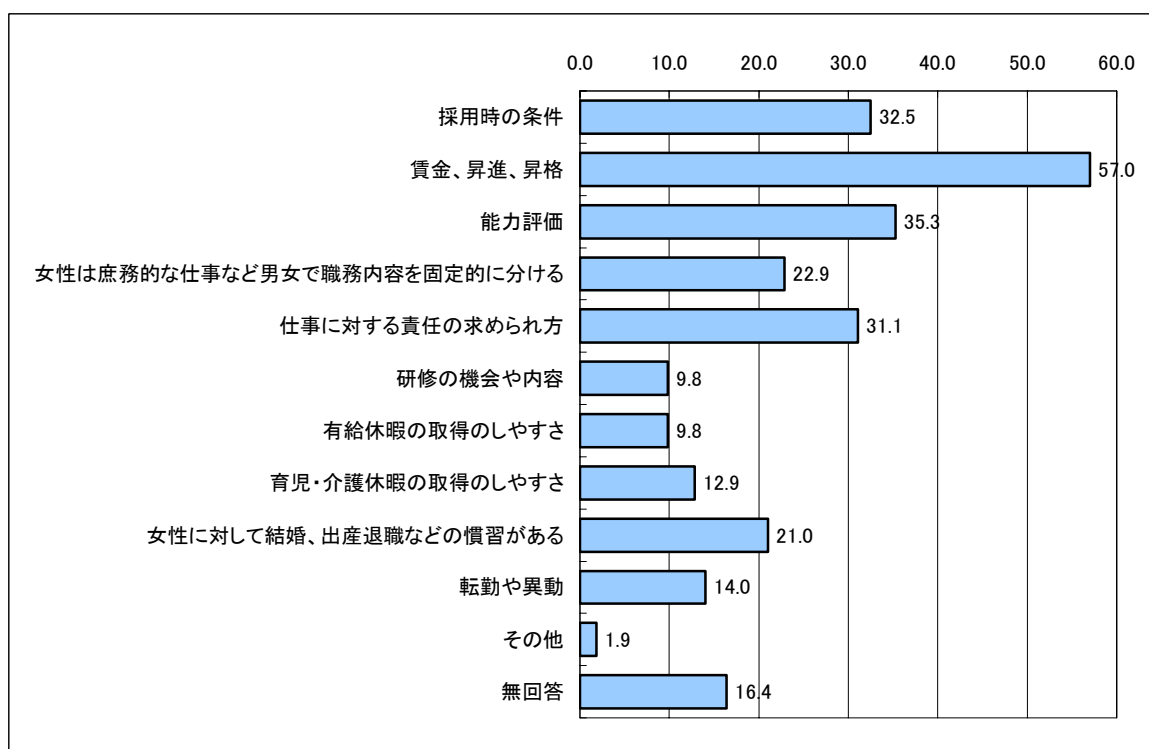
### 〔仕事の能力・内容の男女差についての考え〕

仕事をこなす能力に対する男女差について、回答者の7割以上（71.9%）が「ある」「どちらかといえばある」と答えている。さらに、男性向き、女性向きの仕事内容があるかについては、9割以上（91.2%）が「ある」「どちらかといえばある」と答えている。



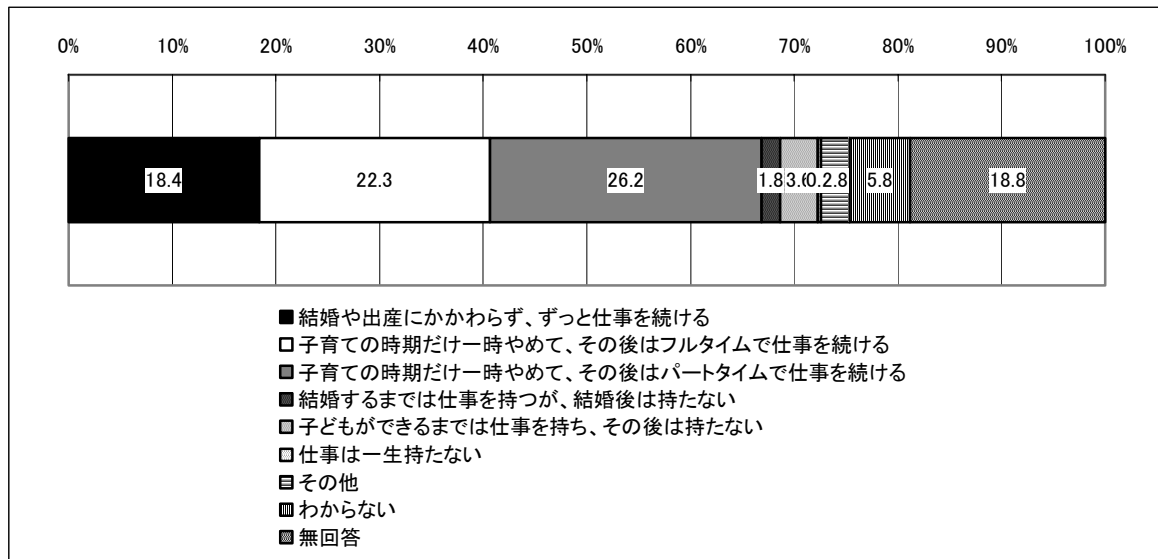
### 〔職場での男女の地位〕

職場での男女の地位が平等ではないと感じている人にその内容を聞いてみたところ、回答者の5割以上（57.0%）が「賃金、昇進、昇格」を挙げている。



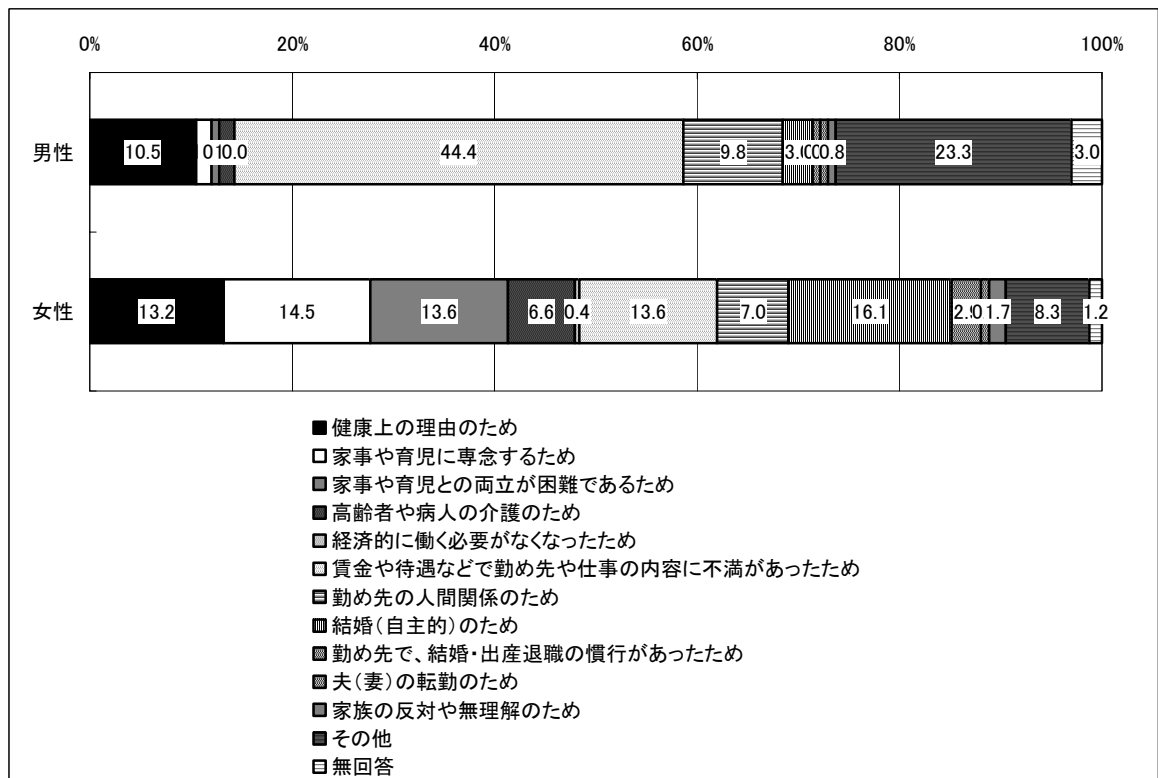
## [女性の仕事へのかかわり方]

女性の仕事へのかかわり方について、回答者の半数近く（48.5%）が「子育ての時期だけ一時やめて、その後は仕事を続ける」ことが望ましいと考えている。



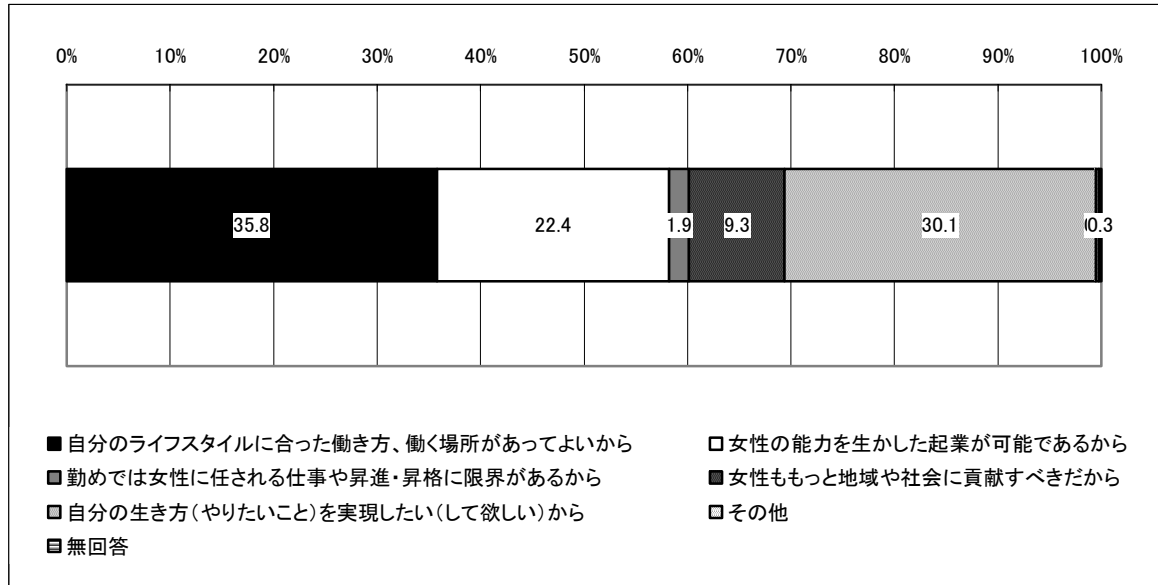
## [中途退職]

回答者の半数以上（52.6%）が途中で仕事を辞めた経験があり、その主な理由は、男性の場合「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」（44.4%）が多く、女性の場合は「結婚（自主的）のため」（16.1%）、「家事や育児に専念するため」（14.5%）と男女でその理由に違いがある。

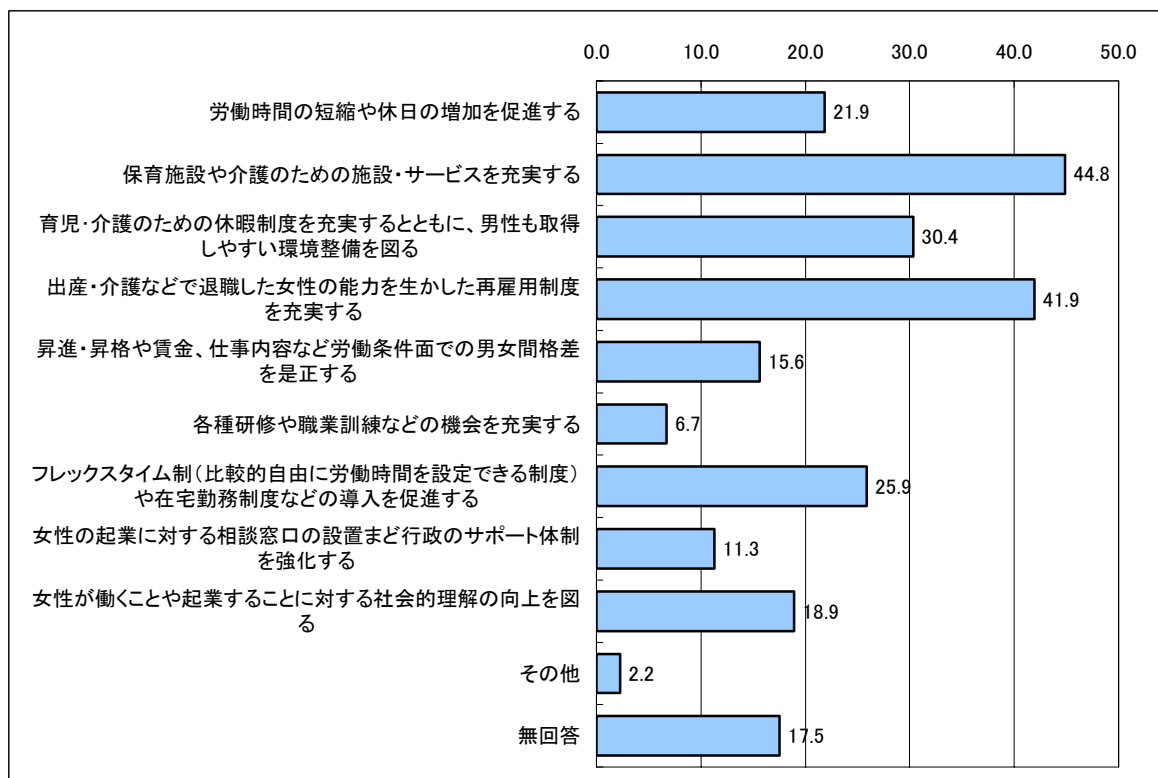


## [女性の起業]

回答者の半数（51.0%）は女性がどんどん起業して社会に出ていくべきだと考え、その理由として、「自分のライフスタイルに合った働き方、働く場所があってよいから」（35.8%）、「自分の生き方（やりたいこと）を実現したい（して欲しい）から」（30.1%）を主に挙げている。



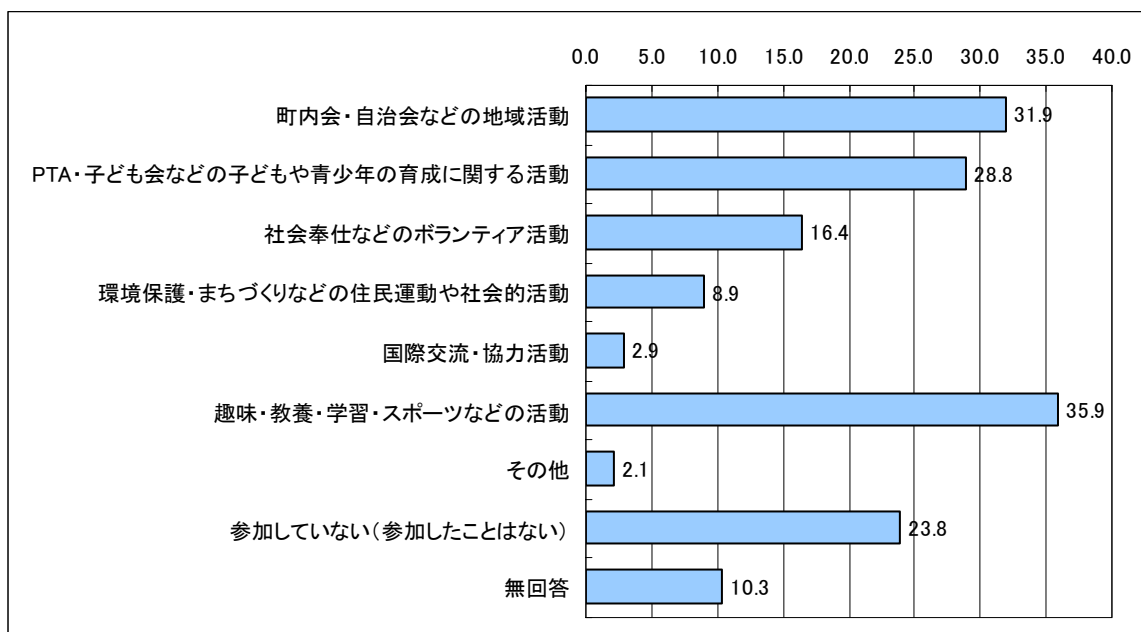
女性が働き（起業し）やすくするために必要なこととして、回答者の4割以上が「保育施設や介護のための施設・サービスの充実」（44.8%）、「出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度の充実」（41.9%）を挙げている。



## 地域活動等について

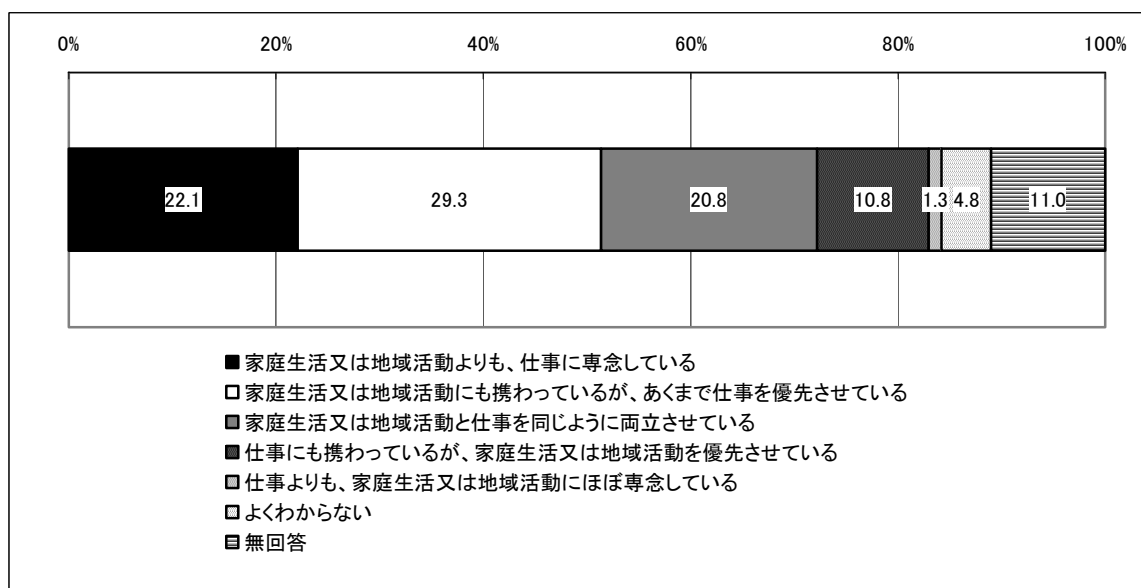
### 〔地域活動〕

仕事以外に家庭の外でどのような活動に参加している（参加したことがある）か尋ねたところ、「趣味・教養・学習・スポーツなど」（35.9%）、「町内会・自治会など」（31.9%）、「PTA・子ども会など」（28.8%）などを主に挙げている。



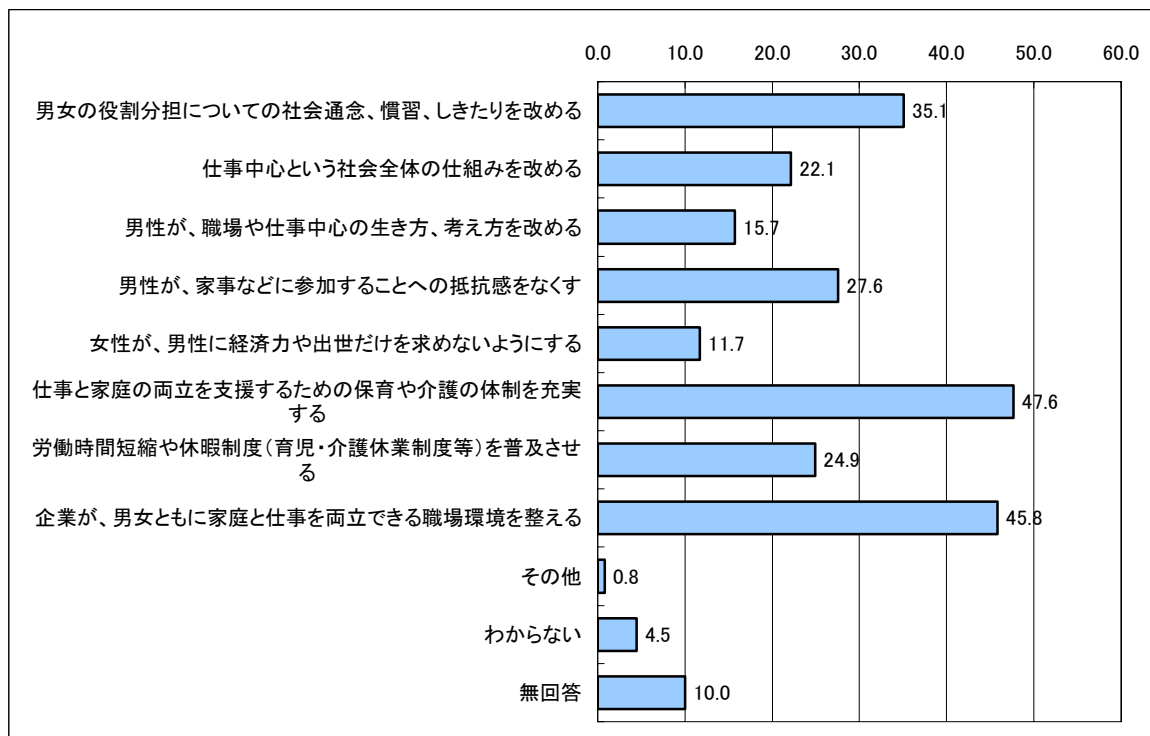
### 〔地域活動や家庭生活へのかかわり方〕

仕事に就いている人の家庭生活や地域活動へのかかわり方については、回答者の半数（51.4%）が仕事「優先」または「専念」と答え、「両立」は2割（20.8%）となっている。



[あらゆる場面に参画していくために必要なこと]

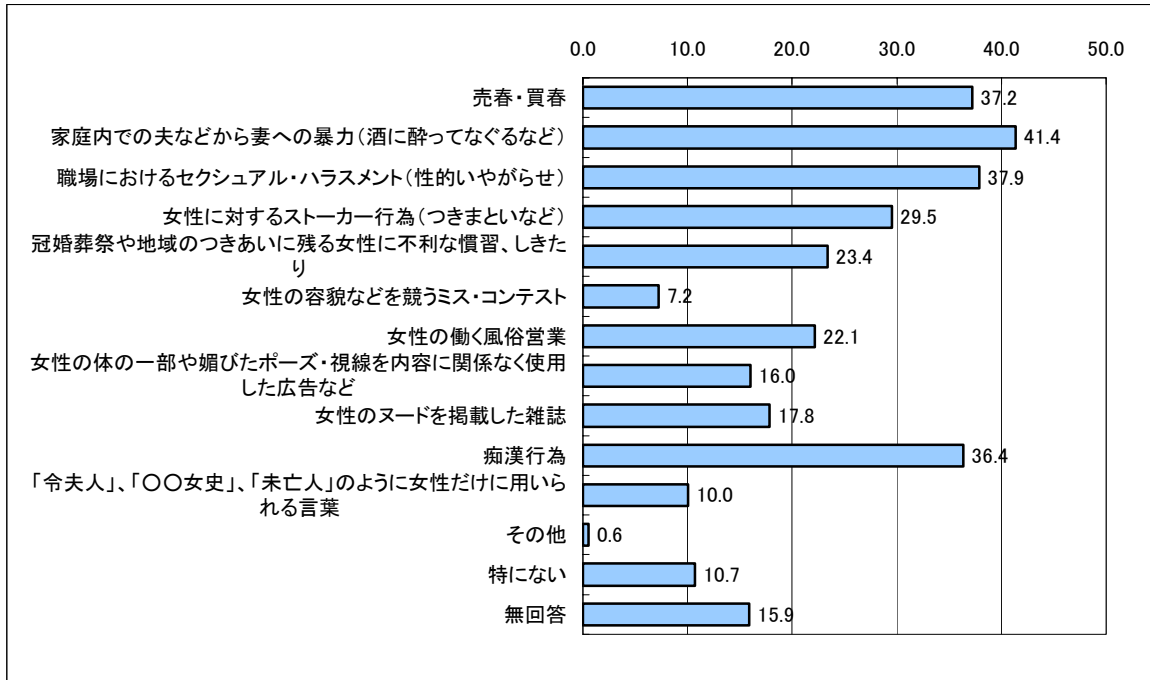
男女がともにあらゆる場面に参加していくために必要なこととして、回答者の4割以上が「仕事と家庭の両立を支援するための保育や介護の体制を充実する」(47.6%)、「企業が男女ともに家庭と仕事を両立できる職場環境を整える」(45.8%)を挙げている。



# 女性の人権、ドメスティック・バイオレンス

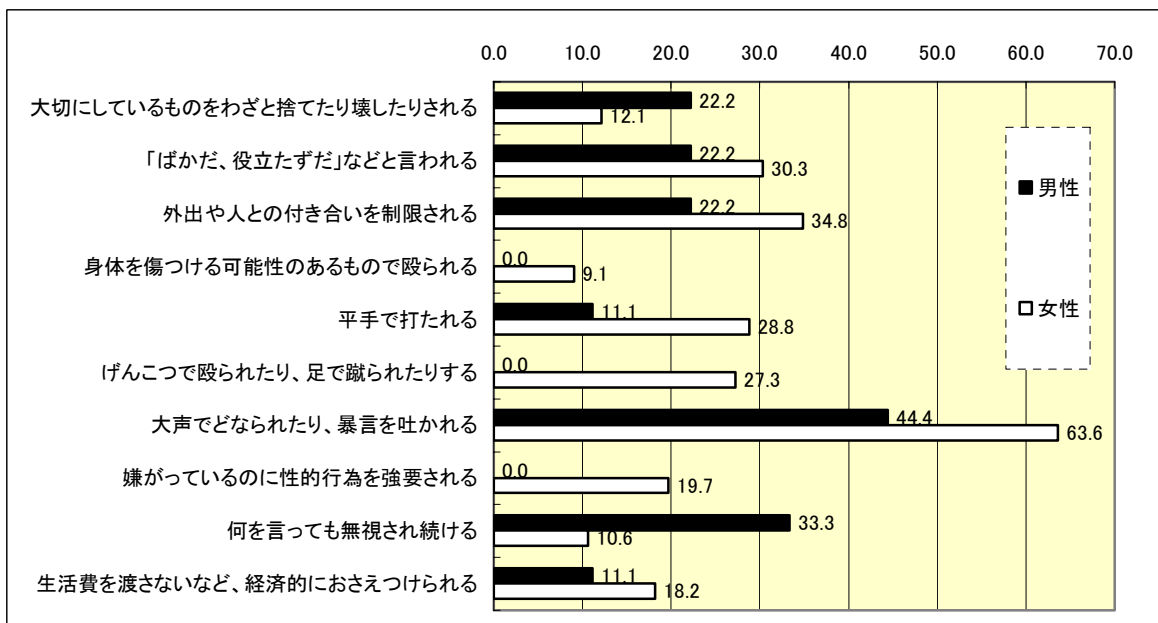
[女性の人権が尊重されていないと感じること]

女性の人権が尊重されていないと感じることについては、「家庭内での夫などから妻への暴力」(41.4%)、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」(37.9%)、「売春・買春」(37.2%)、「痴漢行為」(36.4%)などを主に挙げている。



[ドメスティック・バイオレンス]

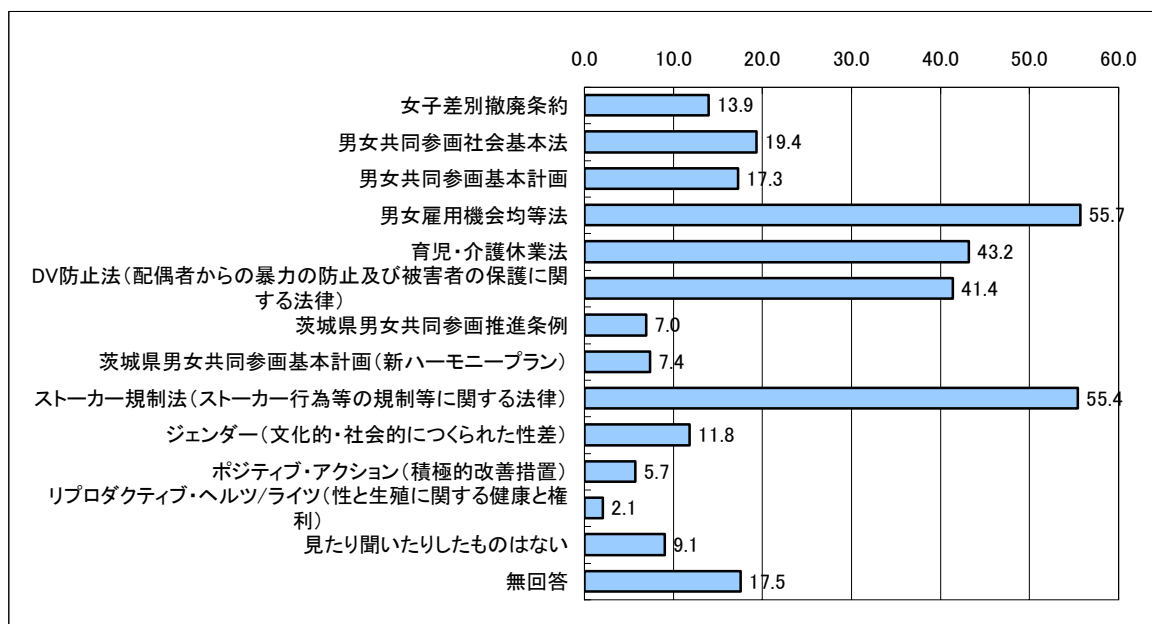
回答者の1割(10.6%)は配偶者や恋人から暴力を受けた経験があり、その内容は女性の6割以上(63.6%)が「大声でどなられたり、暴言を吐かれる」を挙げている。



# 男女共同参画について

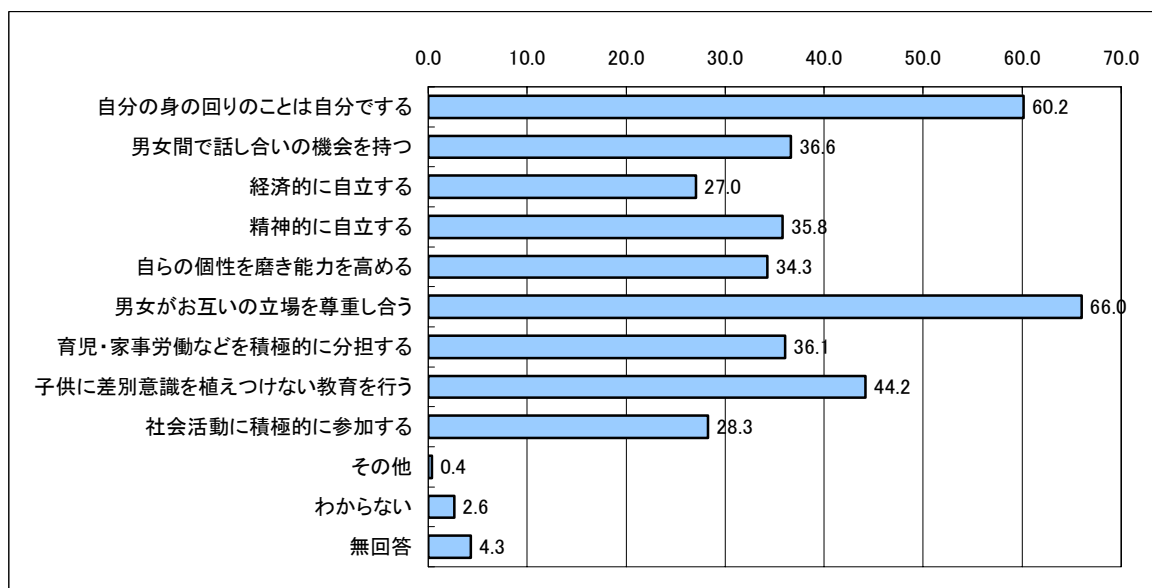
## 〔男女共同参画に関する用語等の周知度〕

男女共同参画に関する用語について、回答者の半数以上は「男女雇用機会均等法」(55.7%)、「ストーカー規制法」(55.4%)の言葉を見たり聞いたりしたことがあると答えている。



## 〔男女共同参画社会実現のために自分自身にできること〕

男女共同参画社会の実現のために自分自身にできることは何かの間に対して、回答者の6割以上が「男女がお互いの立場を尊重し合う」(66.0%)、「自分の身の回りのことは自分でする」(60.2%)を挙げている。





〔男女共同参画社会実現のために行政に望むこと〕

行政が今後力を入れていくべきだと思うことについて、回答者の4割が「男女が共に働きやすい就業環境の整備」(42.5%)、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援」(40.3%)を挙げている。

